体験活動参加型＋在宅取組型（小学校）

学 校 名 等	下呂市立尾崎小学校
実 施 日 時	年２回（７月と１２月）
会　　場	自宅/ 尾崎小学校
参 加 人 数	全校児童＋全保護者　（１０２名＋　７６名）
学習課題（分野）	ノーメディア・ノーゲームデー
運営者の願い	メディアを全て排除するのではなく、子供たちの生活を見直し、子供たち自らが、メディアをコントロールする力を身に付けることを目指す。全児童・全保護者を巻き込んだ運動にすることにより、大きな効果が期待できる。

学　習　の　内　容

＜ノーメディア　ノーゲームデー　＞

☆実施日・回数等： 年2回　7月と12月頃の年2回、期間中の都合のよい3日間に取り組む。

☆実施方法：子供と話し合って、実施日と実施コース(5つ)の中から1つ選択(右下の資料参考)

⇒家族全員で取り組む

⇒取組状況と親子の感想欄を書いて提出

⇒「親子読書」とも連携

＜感想＞

・本人が7日間(本来は、一週間の内3日間で可)のノーメディアデーにすると決めた。テレビを見たいと言い出すと思ったが、一緒に散歩をしたり、オセロをしたりと、楽しい時間だった。

・ノーメディアだと、食事・お風呂がスムーズ。いかにメディアに操られているかが分かった。

・我が家ではＤコースで精一杯。少しずつ上のコースを目指したい。

・パーフェクトコースでも、ニュースは見てもよいのでは？親の方が辛かった。

・祖父母がテレビを点けっ放し。家族全員で考えたい。

会報 11月18日号　まごころ

平成２６年度下呂市立尾崎小学校ＰＴＡ

第２回ノーメディア・ノーゲームチャレンジ特集号

２学期は、『みのり運動会』『もみじ学習発表会』と子どもたちにとって大きな行事があり、日々の練習成果を大いに感じることのできる学期でした。私たち保護者も、楽しく行事に参加することができ、子どもの成長とともに親としてもっと成長していかなければと感じました。

また、１０月に行った家庭教育学級では、平日開催にもかかわらず多くの保護者の皆様にも参加頂き有り難うございました。身近で気密が起きた時のために、再度家庭での対策を考える良い機会になったと思います。

さて、今年度２回目の、ノーメディア・ノーゲームチャレンジを計画しました。

ご多忙のところ恐れ入りますが、取り組みにご協力くださるようお願いいたします。

また、今回は学校行事の『親子読書』と同時期の実施としました。（１１月２１日～１２月８日）ノーメディア・ノーゲームの時間を読書タイムにするなど有効に活用してください

《第２回ノーメディア・ノーゲームの実施方法》

（１）実施期間　１１月２１日（金）～１２月８日（月）

（２）子どもと話し合い「実施日」と「チャレンジコース」を決めて下さい。

（３）チャレンジ達成のため、ご家族のご協力お願いします。

（４）取り組んだ結果を記入し、チャレンジコースが達成できなかった場合は、その理由を考えてみましょう。

＊チャレンジの結果を記入し切り取って１２月１０日までに提出してください。

学年　　年　名前
年　名前
年　名前

日にち	第１回	第２回	第３回
	月　日	月　日	月　日
計画コース			
結果			

コース名	内容(ノーメディア・ノーゲム)
パーフェクト	一日中ノーメディア
A	家に帰ってから寝るまでノーメディア
B	夕食から寝るまでノーメディア
C	メディアは１時間まで
D	食事中、勉強中はノーメディア

結果の書き方
○…できた
△…頑張ってがまんできなくなった
×…できなかった

親子で話し合って、下記の**5コース**より選択

パーフェクト	一日中ノーメディア
A	帰宅～寝るまでノーメディア
B	夕食～寝るまでノーメディア
C	メディアは１時間のみ
D	食事・勉強中ノーメディア

かなり**厳しいコース**（パーフェクト～C コース）**を選んだ家庭は５７％**もありました。計画通りに**達成できた率も今年度第１回目８４％**（前年度同期７４％）と高くなっており、運動の成果は確実に上がっているようです。

＜親子読書＞　図書館と連携した取組

☆実施回数：ノーメディアデーの前後に2回実施。

☆ねらい　親子の触れ合いの中で読書を楽しむ。

☆実施方法

・親子で読書(同じ本でも、違う本でも可)

・期間中、1冊以上読み、感想を書いて提出後、図書館に掲示し、親子読書のよさを広める。

＜保護者感想＞

・「この本読もう！」と来てくれる。今回もとても面白い本を選んでくれた。実はこの親子読書の期間、本以外のことも色々話すことができてとてもうれしい。

・「『ぐりとぐら』の過ごし方、自分達はどう思うかな？」と話し合いながら読み進めることができ、楽しい読書タイムとなった。

＜成果と課題＞

○一昨年と比較して、達成率も上がっており成果を実感できる。

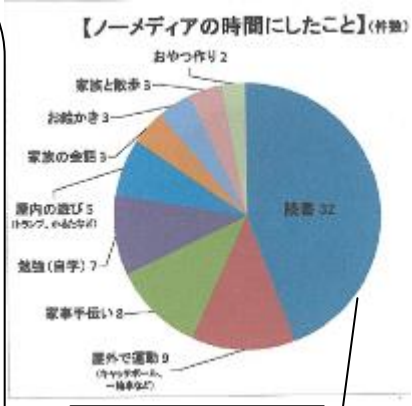
○「ノーメディアデー」によってできた時間の活用法は、 1位:読書　2位:運動　3位:お手伝い　4位:勉強(自学)の順。有効に時間が使えているようだ。「ノーメディアデー推進事業特集号通信」から

○「ノーメディアデー」に限らず、在宅取組型の活動が定着し、保護者の意識も向上している。

△「ノーメディアデー」だけの取組で終っている家庭も多い。今後、子ども自らがメディアコントロールできるよう、様々な所とも連携し、息の長い活動にして定着を目指していきたい。

「ノーメディア・ノーゲームデー」に限らず、様々な取組（「弁当の日」「一家庭一ボランティア」なども含め５種類、年７回）に在宅型で取り組まれています。保護者参加率も、毎回ほぼ１００％で、学校と保護者の連携が素晴らしいです。

「ノーメディアデー」の活動は、親子で話し合って５コースから選択できます。一人一人の思いや、個々の家庭の状況に合わせて、無理なく取り組めるようになっています。また、一週間の内最低３日間の取組を目指していますが、意欲的に７日間取り組んだケースもあり、個に応じてハードル設定できるところがいいです。



ノーメディアデーで生じた時間を読書に活用すると回答した人は　⇒　約４５％

「一家庭一ボランティア」の活動も活発。（以下に感想）

子：車が駐・停車するところに、「煙草のすいがらばっかり！」

親：その発言に、大人として、恥ずかしかった。